

Ⅲ 授業の実際

1 クロス・セッションの基本型の授業実践 (第2学年：歴史的分野「大正時代」)

授業の流れ

- ① 資料から大正時代と現代の接点を読み取る
- ② 「学習班」を編成し、大正時代の略年表を作成し、時代の特色を概観する

大正時代をネーミングしよう！「大正時代は……(な)時代」
- ③ 「学習班」の中で、次の追究課題を分担する

○ 政治的な動き(憲法運動、普選運動、政党内閣) ○ 関東大震災 ○ 大衆文化
○ 民衆運動(労働・農民・部落解放・婦人運動) ○ 教育・学問・文化
- ④ 同じ課題を分担した生徒で「調査班」をつくり、調べ学習を行う
- ⑤ もとの「学習班」に戻り、調査結果を相互に発表し合い、意見交流する
- ⑥ 大正時代のネーミング活動を次の段階で行う

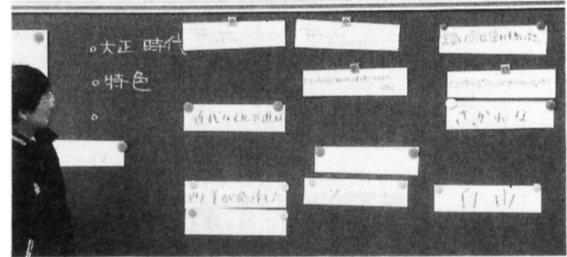
個人→学習班→全体(KJ法で類型化しながら意見交換を行う)
- ⑦ 自分なりの時代像をまとめるとともに、単元の学習を振り返る

- (1) 「調査班」での調べ学習では、文献資料、インターネットなどを使って、分からないところを聞き合いながら協力して活動できた。
- (2) もとの「学習班」に戻っての調査結果の共有化では、少人数の話し合いだったため活発な交流がなされた。またこの活動の後、「調査班」に戻り、うまく説明できなかった点や答えられなかった質問等の意見交換をし、再び「学習班」で補充し合う活動を取り入れた。これによって、調査結果の共有化がより一層図られ、授業が活性化した。



《学習班での調査結果の共有化の場面》

- (3) 大正時代をネーミングする活動を、個人→学習班→全体の三段階で行い、大正時代の特色をより明確にする全体での話し合いでは、KJ法を活用しながら類型化を図った。



《各班のネーミングをKJ法で類型化している場面》

—「学習班」でネーミングした例—

- 現代社会につながる革命的な時代
- 市民の生活や権利が向上した自由な時代
- シーズーのような不安定な時代
- 短い期間ながら、たくさんのことがあった時代 など

- ◆ 生徒たちは、ネーミングする活動を通して、15年という短い期間ながらも、政治、社会、文化に大きな進展があった大正時代の時代像を自分なりにとらえていくことができた。

2 クロス・セッションの発展型の授業実践 (第1学年：地理的分野「アメリカ合衆国」)

授業の流れ

- ① アメリカ合衆国に対するイメージを発表し合うとともに、アメリカ合衆国のおおまかな特色を調べる
- ② 学習課題を設定し、課題解決のための見通しを持つ

アメリカ合衆国は、本当に世界のトップ・リーダーなのだろうか？

 - ◆ 課題に対する3つの立場：「肯定」、「否定」、「中立」
- ③ 「学習班」の中で、次の追究課題を分担する

○ 自然・歴史・文化 ○ 工業力 ○ 農業生産力
○ 経済力・軍事力 ○ 内部にかえる問題
- ④ 同じ課題を分担した生徒で「調査班」をつくり、調べ学習を行う
- ⑤ もとの「学習班」に戻り、調査結果を相互に発表し合い、意見交流する
- ⑥ 課題に対する同じ立場の生徒同士で「討論班」を組織し、討論する

3つの立場の討論班：「肯定班」、「否定班」、「中立班」

 - ア 「討論班」で話し合い、討論のための準備をする
 - イ 全体討論する
 - ウ 自分の最終的な立場を名札マグネットですす
- ⑦ 単元の学習を振り返り、アメリカ合衆国に対する自分の考えをまとめる

- (1) 三つの立場に区分された黒板に名札マグネットを置いて、自分の立場を表しながら話し合いや討論活動を進めた。「生徒の居場所」をつくり出すことで、生徒一人一人に学習への参加者としての自覚を持たせることができた。自分の考えが変わったら立場を考えてよいことを認めた上で、①単元の最初、②学習班での調査結果の共有化後、③全体討論の最中・終了後にこの活動を位置付けた。
- (2) 全体討論は、賛否に執着せず多様な考えを